

都市再生整備計画 事後評価シート

久米中央地区

平成27年3月

山口県周南市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県	市町村名	周南市	地区名	久米中央地区			面積	27.1ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	953	国費率	0.4					
事業名												
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業 基幹事業	土地区画整理事業(久米中央地区)・高質空間形成施設										
	提案事業	地域創造支援事業(交通安全対策事業)										
	事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業 基幹事業	公園			地権者交渉の難航に伴い整備を取止めた。		指標への影響はあるが、数値目標の変更は無し。					
	提案事業	なし										
	新たに追加した事業 基幹事業	なし										
	提案事業	なし										
	交付期間の変更 当 初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
	変 更											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標 単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数 値 モニタリング 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)		フォローアップ 予定時期			
	指標1 公共施設に対する住民の満足度	% 39.1	H21 60.7	H26 未実施	○ 72.6	あり なし	事業の進捗に伴い道路・下水等基盤整備により生活環境が向上した		—			
	指標2 通学児童と保護者満足度・安心度	% 41.0	H21 70.0	H26 未実施	○ 71.2	あり なし	通学路が整備済道路へ切り替えられた効果により、満足度・安心度の維持・向上が得られた		—			
	指標3 緊急車両等の通行困難道路面積	m ² 12,345.6	H21 1,635.1	H26 未実施	○ 1,534.4	あり なし	事業の進捗に伴い、着実に道路が整備された		—			
	指標4					あり なし						
	指標5					あり なし						
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標 単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数 値 モニタリング 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)		フォローアップ 予定時期			
	その他の数値指標1 なし											
	その他の数値指標2 なし											
	その他の数値指標3 なし											
4)定性的な効果発現状況	元々持っている地理的な利便性に加え、道路・下水道等の公共施設の整備により、整備後の分譲地についても人気が高く、また商業施設等の新規出店・出店計画も増加しており今後益々賑わいのあるまちになるものと思われる。											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	地区内自治会集会 区画整理審議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 年2～3回程度の区画整理審議会開催とまちづくりニュースの定期発行を継続 整備の進捗伴う地区内関係自治会の自治会再編会議への参加						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

久米中央地区(山口県周南市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
主要幹線道路の整備に併せて、安心・安全で快適な居住空間の形成を図る。	公共施設に対する住民の満足度	単位: %	39.1 H21	60.7 H26	72.6	H26
	通学児童と保護者満足・安心度	単位: %	41.0 H21	70.0 H26	71.2	H26
	緊急車両等の通行困難道路面積	単位: m ²	12,345.6 H21	1,635.1 H26	1,534.4	H26
		単位:	H	H	H	H
		単位:	H	H	H	H
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 宅地造成を含め、道路・下水道等の公共施設の整備改善が進み、土地の利活用がも活発化し、地区内への新規転入者や居住人口の若返り化も図られた。 計画的な基盤整備を行う事により、狭隘道路は着実に減少している。また、都市計画道路を始めとした区画道路の整備が進んだ結果、通学児童の安全性が向上し。また、整備前は緊急車両進入困難な狭隘道路も着実に減少されおり、安心・安全な居住空間が形成されている。しかし、道路・歩道等の整備による交差点の増加、信号機設置に伴う渋滞の発生及び軽車両(自転車)の運転マナーの面で新たな課題が生じている。 					
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な事業推進を行い、今後は商業施設等の出店も含め更なる土地の利活用の活性化を図り、地区内人口の増加・定着を図る。 引き続き道路・下水等の公共施設の整備を進めると共に、植栽等潤いのある空間を演出すると共に、他事業により地区内三カ所の公園整備を進める。 保護者からの「引き続き整備必要」の意見を確實に実行し、更なる通学児童の安全確保に努める。 消防等と連携を図り、随時地区内の通行可能道路等の情報提供に努め、また仮設道路等の設置により一時的にも通行不可箇所の発生を抑制しつつ、効率的・計画的な整備を進め、緊急車両進入困難箇所の完全解消を図る。 					